

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	老年看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	後期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	竹田 知美	実務経験とその関連資格	消化器病棟勤務勤務・領域老年看護学			
《科目目標》						
老年期にある対象を理解し、高齢者の健康の維持を支える日常生活援助を実施するための基礎的能力を養う						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】老年看護学実習の評価表に基づいて行う。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 MCメディカ出版 (デジタル版) ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 MCメディカ出版 (デジタル版)						
《授業外における学習方法》						
事前学習、課題学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
老年期にある対象に興味関心を向け、加齢に伴う身体的・精神的・社会的の実際を学ぶ。高齢者の持てる力に着目し対象を捉える。						
実習プログラム						
実習期間 時間数	2026年1月 合計45時間					
実習の目的	1. 実習目的 高齢者の生きてきた過程や大切にしていることを理解し、その人らしく生活していくことができるための看護が実践できる基礎的能力を養う 2. 実習目標 1) 健康を維持しながら生活する対象の加齢に伴う変化や特徴を理解する 2) 施設で生活する対象の生活機能に合わせた日常生活援助が実施できる 3) 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉チームの役割と連携を理解する					
実習の内容	1) 地域や施設で生活している高齢者との交流を通して関心を持つことができる 2) 加齢に伴う機能低下と健康障害が、日常生活に及ぼす影響について考えることができる 3) 対象の生きてきた過程や思いからその人らしさを踏まえた生活を考えることができる 4) 対象を尊重した態度で関わり、特徴に合わせたコミュニケーションがとれる 5) 対象のその人らしく生活できることを踏まえた日常生活援助を実施できる 6) 老年期にある対象との相互交流から保健・医療・福祉の連携の必要性について考えることができる 7) 施設で働く多職種の役割と連携の必要性を述べることができる					